

第 2 8 期第 1 回
札幌市スポーツ推進審議会

会 議 録

(概要版)

日 時：2020年9月16日（水）午後3時開会
場 所：O R E 札 幌 ビ ル 7 階 会 議 室

1. 開 会

- 1. 1 開会挨拶
- 1. 2 スポーツ局長挨拶
- 1. 3 委員及び事務局紹介
- 1. 4 配布資料確認、スポーツ局概要説明

2. 会長及び副会長の選出

○事務局（金谷企画事業課長） 続きまして、第28期における会長と副会長の選出でございます。

札幌市スポーツ推進審議会条例施行規則第2条第2項の規定によりまして、会長及び副会長は、委員の皆様の互選によって定めることとなっておりますが、一旦、事務局案をお示しさせていただきたいと思います。

そのように進めさせてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○事務局（金谷企画事業課長） ありがとうございます。

それではまず、第28期の会長でございますが、第27期の会長でありました札幌教育大学の石澤会長の後任として大学の部から今回選出されております北翔大学の准教授で、テニスと栄養学を専門に、スポーツ分野のみならず、健康分野にも造詣の深い黒田委員にお願いしたいと思います。

そして、副会長には、長らく地域スポーツの振興にご尽力をいただいております明石委員にお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり・拍手）

○事務局（金谷企画事業課長） ありがとうございます。

それでは、第28期札幌市スポーツ推進審議会の会長は黒田裕太委員に、副会長は明石久枝委員に決定させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、両委員は、正面の会長席、副会長席へ移動をお願いいたします。

〔会長、副会長は所定の席に着く〕

○事務局（金谷企画事業課長） それではまず、黒田会長より、一言、ご挨拶をお願いしたいと思います。

○黒田会長 今、ご紹介いただきました黒田です。よろしくお願いいたします。

年に何回かしかない会議だと思いますが、円滑に進めるよう、司会を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○事務局（金谷企画事業課長） ありがとうございました。

続きまして、明石副会長より、一言、ご挨拶をお願いいたします。

○明石副会長　今回、副会長の役目は大変だと思いますので、皆さんのご協力を得て一生懸命やりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（金谷企画事業課長）　ありがとうございました。

続きまして、本日の議題に入らせていただきますが、ここからの議事進行につきましては、黒田会長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

３．議　事

○黒田会長　よろしくお願いします。

委員の皆様、今後ともよろしくお願いいたします。

議題に入らせていただく前に、委員の皆様にマイクの使用についてお願い申し上げます。

当審議会は、後日公開による議事録作成のため、録音を行っておりますので、発言の際はマイクの使用のご協力をよろしくお願いいたします。

まず、（１）の付議案件の趣旨説明、審議ということで、本日の議題に入らせていただきます。

お手元の次第にありますとおり、議題としまして、事務局から札幌市スポーツ推進計画に掲げた施策の進捗状況についてが提示されております。

初めに、事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局（金谷企画事業課長）　それでは、事務局からご報告をさせていただきます。

札幌市スポーツ推進計画に掲げた施策の令和元年度における進捗状況でございますが、資料３のご報告、説明に入る前に、第２８期スポーツ推進審議会の第１回目ということで、札幌市スポーツ推進計画の概要と今日のご報告に至るまでの経緯について説明させていただきます。

A３判の資料３の１枚目をご覧ください。

それから、お手元に「札幌市スポーツ推進計画」の冊子をお配りしておりますので、そちらも併せてご覧いただければと思います。

札幌市スポーツ推進計画の計画期間ですが、平成２５年度から令和４年度までとする１０年間の長期計画となっております。お手元の冊子の表紙にも改定版と書いておりますとおり、令和元年７月に改定しております。改定に当たりましては、第２７期の審議会の皆様にもご審議をいただいて改定したところでございます。

資料３の左上の１の背景にもございますが、平成２６年２月の旧計画の策定以降、札幌市として平成２６年１１月には、冬季オリンピック・パラリンピックの招致を表明し、平成２８年４月には新たにスポーツ局を設置、そして、平成２９年３月には、スポーツ庁が

第2期スポーツ基本計画を示すなど、スポーツ行政の在り方や札幌市のまちづくり戦略の方向性に变化が見られてきたところでございます。

こういったことを踏まえまして、第27期の審議会において、個人の「する」「みる」「支える」スポーツとの関わりや幅広い年代の健康づくりなどの視点から、「市民」というキーワード、また、地域の抱える課題、ウインタースポーツなどの視点から、「さっぽろ」というキーワード、そして、オリンピック・パラリンピック招致、国際大会開催といった視点から、「世界」というキーワードをそれぞれ設定したところでございます。

続いて、2のスポーツ推進計画についてもありますとおり、「市民」「さっぽろ」「世界」の三つのキーワードをもとに、「スポーツ元気都市さっぽろースポーツを通じて、市民が、地域が、さっぽろが元気にー」という基本理念を定めまして、それぞれのキーワードが目標1、目標2、目標3となっております。この目標から全目標共通の五つの成果指標を定めております。

その成果指標は左側の一番下のところですが、一つ目はスポーツ実施率でございます。

これは、旧計画から引き続きの指標でございます。

20歳以上のうち、週1回以上スポーツをする方の割合、改定時の平成29年度実績は56.4%となっておりますが、目標値を国と同じく、およそ3人に2人の割合、65%ということで設定しております。

二つ目は障がいのある方のスポーツ実施率でございます。

これは、改定に伴い、新規に設定した指標でございます。

こちら、20歳以上の方のうち、週1回以上スポーツをする方の割合でございます。平成29年度実績は43.7%で、目標値を50%と設定しております。国の目標は40%となっておりますが、アンケートの取り方の違いなどもございまして、既に国の目標値を超えておりましたことから、札幌市では50%と目標を設定しております。

三つ目は、ウインタースポーツ実施率です。

これも、旧計画から引き続きの指標でございますが、対象を20歳以上の方から18歳から49歳の方に変更しております。これは、ウインタースポーツにはスキーやスケートなど、競技性の高い急な体の動きをする種目が多く、高齢者の方にとっては実施することが困難であるというアンケートの結果を踏まえまして、ウインタースポーツ文化の継承という視点を指標と位置づけたことによるものでございます。

この指標は、この世代の方のうち、年1回以上、ウインタースポーツを実施する方の割合でございます。

平成29年度の実績は20.1%で、目標値は引き続き25%としてございます。

四つ目は、直接スポーツ観戦率でございます。

これも、改定に伴い新規に設定した指標です。

こちらは、18歳以上の方のうち、年に1回以上スポーツの会場で観戦した方の割合となっております。平成29年度実績は43.6%でございまして、国では目標値を設定し

ておりませんが、本市は目標値を50%と設定しております。

五つ目は、ウインタースポーツ目的の来札外国人観光客数でございます。

これも、改定に伴い新規に設定した指標でございます。

これは、札幌市の観光部局で把握している1月から3月の外国人宿泊者数に、同じく観光部局で実施しているアンケートから、旅の目的としてウインタースポーツと回答している方の割合を乗じた理論値によって算出しております。平成29年度実績は17万5,000人です。目標値は、インバウンドによる観光客の増を勘案して、25万人と設定しております。

これら五つの成果指標の令和元年度実績は、後ほど、またご説明をさせていただきたいと思っております。

そして、先ほどの三つの目標、「市民」「さっぽろ」「世界」を達成すべく、それぞれの事業を展開する上で設定したのがお手元の資料の右側にございます3、施策体系でございます。三つの目標に七つの方針、15の施策が関連づけられ、これに基づき事業も展開されることになってございます。

続いて、15の施策の進捗状況でございますが、主な事業を抜粋した形でご報告させていただきます。

資料3の1枚目の裏面になります。

まず、左側の一番上に自己評価基準がございますが、表の具体的な取組ごとに達成度を自己評価しております。

これは、事業を執行する部局がその事業内容や事業目的等と照らし合わせまして、当初の事業内容を予定どおり実施し、事業目的を十分に達成できたものを二重丸の評価としております。そして、事業内容、事業目的と照らし合わせて、おおむね達成はできたものの、まだまだ改善の余地があるものを丸としています。そして、予定どおり事業を実施できず、今後に向けて検討を要するものを三角としております。最後に、外的要因により未実施のもの、当該年度時点で事業化に至っていないものをハイフンとしております。

それではまず、目標1、スポーツの力で「市民」が輝く、方針1、ライフステージや体力に応じたスポーツ活動の推進、そして、施策1の子ども、高齢者、子育て世代、ビジネスパーソンのスポーツ参加を目指しますでございます。

小学生の子どもたちの学校の授業であるアルペンスキー以外の種目のクロスカントリースキーやジャンプ、リュージュ、スノーボード、カーリング、スケートなどを体験してもらうウインタースポーツ塾を、夏休みと冬休み期間中に実施し、昨年度は、延べ1,100人程度の子どもたちに参加をいただいたところでございます。

また、中学校の部活動に部活動指導員、特別外部指導者といった外部人材を活用しまして、顧問の確保が厳しくなりつつある現状を踏まえ、運動部活動減少に歯止めをかける取組を行ったところでございます。

子どものスポーツ参加のきっかけづくりとしては、自己評価は二重丸としております。

次に、幅広い年代の方に取り組んでもらえる「ウォークさっ歩ろ」について、各区で作成しているウォーキングマップを引き続き配架するなど、ウォーキングの普及に努めてまいりましたが、ウォーキング推進キャンペーンの実施といたしましては、自己評価を丸としてございます。

続いて、施策2、スポーツに親しむための場所や機会を充実させますでございますが、今後の市民のスポーツ活動を支える中核施設としての機能を持ち、可動席を含め、2,500席の観客席を有します新中央体育館、北ガスアリーナ札幌46を昨年4月27日にオープンさせたことから、この取組の自己評価は二重丸としました。一方、今後の人口減少や超高齢社会、多様化するニーズ等を踏まえたスポーツ施設の再配置、再整備の計画につきましては、昨年度中の策定に向けまして、各種の検討、関係者調整を行ってまいりましたが、計画策定までには至らなかったため、こちらの自己評価は黒三角としてございます。

なお、当該計画につきましては、今年度末までの策定を目指しまして、現在、鋭意準備を進めているところでございます。

次に、区の体育館とともに、市民のスポーツ活動の場を提供する事業として、昭和42年から実施している小・中学校の体育施設の開放事業でございますが、昨年度も引き続き実施して、延べ120万人の方々にご利用いただいたところでございまして、こちらの自己評価は二重丸とさせていただきます。

それから、ラグビーの普及振興事業でございますが、ワールドカップ開催に伴いまして、「未来計画 Dream Beyond 2019」という計画を策定しまして、ワールドカップが終わった後もラグビーの人气が定着するように、北海道ラグビーフットボール協会と協力しまして、トップレベルの試合観戦の機会提供を行ったほか、地域のイベントなどでラグビーの普及に努めたところでございまして、自己評価は丸としております。

続いて、右に移って施策3、ウインタースポーツを振興しますでございます。

これまで、スキー学習が始まる小学3年生を対象に、リフト料金を1,000円補助してまいりましたさっぽろっ子ウインタースポーツ料金助成でございますが、こちらの対象を小学校3年生から6年生まで拡大しました。それから、小学全学年を対象に夏と冬の2回、300円のスケート貸し靴料金の補助もしており、両方を合わせて延べ1万5,000人ほどの利用実績がございましたので、自己評価を二重丸とさせていただきます。

また、ウインタースポーツの観戦文化醸成の取組としまして、平成30年度に引き続き、コンサドーレさんと札幌スキー連盟、札幌市が連携しまして、コンサドーレさんが持ちます情報発信力、興行ノウハウを生かしまして、スキージャンプ大会の集客、会場の盛り上げなどを行いまして、来場者にも大変好評をいただいたことから、こちらも自己評価を二重丸とさせていただきます。

次に、方針2、スポーツを通じた健康増進、施策4、スポーツを通じて市民生活の質の向上を図りますでございますが、健康づくりセンターにおける健康づくり事業の新規利用者の開拓を図ったものの、新型コロナウイルスの影響を受けまして、利用者数が結果とし

て減少してしまったこともあり、自己評価は丸としてございます。

次に、施策5の冬季における運動習慣を推進しますでございますが、中島公園と白旗山競技場の歩くスキーコースを無料開放しておりまして、特に中島公園のコースは、インバウンドの外国人に人気が高いコースとなっております。

しかし、昨シーズンは、シーズン当初の少雪とシーズン後半には新型コロナウイルスの影響ということで、コースの開放日数自体が減少してしまったことから、自己評価は丸としております。

次に、方針3、様々な形・場でのスポーツ参加を促進、施策6の地域での取組を支援し、地域コミュニティの醸成につなげますでございますが、地域におけるスポーツ活動の担い手でございます体育振興会に対し、オリンピックをスポーツイベントの講師として派遣するなどの活動支援を行い、自己評価は丸としてございます。

続いて、施策7のスポーツを支える人材を育成し、活動を推進しますにつきましては、非常勤の特別職公務員として、各地域でご活躍いただいておりますスポーツ推進委員の皆様が主催、共催、協力して開催したスポーツイベントが計30イベントございまして、自己評価としては二重丸としております。

続いて、次のページでございますが、施策8、トップアスリートと連携を図りますでございますが、札幌市に本拠地を置きますファイターズ、コンサドーレ、レバンガ、そして、エスポラーダと連携した区民応援デー、サッポロキッズデイなどを通じて、観戦文化の調整を図ったところでございまして、自己評価としては丸としております。

次に、目標2、スポーツの力で「さっぽろ」をかえる、方針4、スポーツを通じた共生社会の実現、施策9、障がい者スポーツを振興しますでございますが、平成30年度に引き続きまして、クロスカントリースキーのシットスキー、アルペンスキーのバイスキーの指導者養成講習会と、その講習会受講者に指導者としてご参加いただいていた体験会を実施して、障がいのある方のウインタースポーツ環境の充実に努めてまいりました。こちらの自己評価は丸となっております。

また、肢体不自由のある子どもたちを対象に、定期的に様々な競技を指導します「パラスポーツクラブSAPORO」を新たに立ち上げることで、障がいのある子どもが初心者であっても気軽にスポーツを楽しめる環境を整備したところでございまして、自己評価は二重丸としております。

続いて、施策10、スポーツを通じた国際交流、異文化理解を推進しますでございますが、札幌のクロスカントリースキーの選手である中学生を国際親善、姉妹都市交流のために、アメリカのポートランドに派遣することで調整を進めてまいりましたが、新型コロナウイルスの世界的感染拡大ということで、派遣自体が中止となってしまいましたので、自己評価についてはハイフンとなっております。

次に、方針5、スポーツを通じた経済・地域活性化でございます。施策11、札幌の特色をいかしたスポーツツーリズムの推進、交流人口の拡大に努めますについては、オース

トラリアで開催されましたスポーツアコード2019にブース出展をして商談会を実施したほか、東京2020のパラリンピックに出場するウクライナ男子ゴールボールチームの視察団を受け入れまして、事前合宿地にも選ばれたことなどから、自己評価を丸としております。

続いて、施策12、札幌のスポーツ資源をいかしたスポーツの楽しみ方を提供しますが、冬季オリパラ招致の機運醸成、オリパラ教育の推進を目的に、北海道にゆかりのあるオリンピック・パラリンピアンたちが設立しました北海道オール・オリンピックズの活動拠点といたしまして、「オリパラ サロン」を札幌オリンピックミュージアム内に開設したところでございまして、自己評価は二重丸としてございます。

次に、右側に移りまして、目標3、スポーツの力で「世界」へつながる、方針6、「さっぽろ」の魅力を世界に発信、施策13、国際大会やスポーツイベントを通じて国内外へ札幌の魅力を発信しますが、札幌ドームにおきまして、9月21日、そして、22日に行われましたラグビーワールドカップ2019大会により、約2万6,000人の外国人が札幌を訪れるなど、大会が大成功に終わったということで、自己評価は二重丸としてございます。

一方で、新型コロナウイルスの世界的感染拡大によりまして、東京2020オリンピック・パラリンピックが開催延期となりましたことから、東京オリンピック開催事業は、自己評価をハイフンとしております。

次に、方針7、世界が憧れるウインタースポーツの拠点都市へ発展、施策14、オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進しますが、引き続き、招致機運を醸成するための取組を進めたほか、IOCとの対話の機会を活用しながら施設整備や大会運営の在り方などについて協議を進めてきており、冬季オリンピック・パラリンピック招致事業の自己評価自体は丸としております。

また、オリンピック・パラリンピック教育推進事業は、教育研究推進校を91校に拡充するとともに、小学3年生向け札幌版副教材、中高教員向けの指導資料集などを配布しておりまして、自己評価は二重丸としております。

続いて、施策15、札幌ブランド、シビックプライドを醸成しますが、札幌から世界に羽ばたくトップアスリートの育成を図るべく、先ほどもご紹介しましたが、札幌市スポーツ協会や各競技団体と連携いたしまして、今年度から、さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業を開始したところでございます。昨年度につきましては、冬季競技の育成種目ということで、スノーボード、スキージャンプ、ノルディック複合、フリースタイル（モーグル）、カーリングの5種目を育成種目ということで選定しました。

15の施策の進捗状況については、以上でございます。

そして、1枚おめくりいただきまして、最後のページでございます。

ここでは、5、成果指標と目標数値の状況についてご報告いたします。

まず、一つ目のスポーツ実施率でございますが、令和元年度は58.6%と前年度から

4. 4ポイントの増加となっております。比較対象として、国の数値を記載してございますが、53.6%ということで、札幌市のほうが5%高い結果となっております。

過去の推移を見ますと、平成29年度に、前年度から20ポイントほど大幅増ということで56.4%となっておりますが、これは、スポーツ庁の第2期スポーツ基本計画が一億総スポーツ社会の実現に向け、競技スポーツだけではなく、健康維持や仲間との交流を目的とした散歩やダンス、健康体操、ハイキング、サイクリングなども広くスポーツと捉えたことを札幌市のアンケートにも反映させた結果、前年度から大幅増となったものでございます。

また、令和元年度の集計結果を分析いたしますと、年代別では各年代とも増加している中、20代だけが8.5ポイントの大幅減で、55.4%から46.9%になっております。従来から低い水準だった30代は44.9から46.7に増加はしていますが、この20代と30代が50%を下回る状況になっております。

この20代、30代に対するアプローチがウイークポイントであることがこうした結果からも見えてまいりましたので、先ほどご紹介いたしました事業のうち、施策1にありますビジネスパーソン、子育て世代に対するスポーツ機運の醸成といった辺りの事業について、引き続き力を入れて取組を進めていきたいと考えてございます。

次に、二つ目の障がいのある方のスポーツ実施率でございます。

令和元年度は52.6%と前年度から1ポイント増加となっており、既に目標の50%は達成しております。比較対象として、国の数値でございますが、25.3%と非常に大きな乖離がございます。これは、札幌市とアンケートの手法の違いによるものと考えております。

札幌市の場合は、障害者手帳を持つ方を対象とした郵送調査を実施していますのに対し、国は、インターネット調査会社が保有するリサーチモニターを対象としたインターネット調査ということで、手法が異なっております。こういったことも影響して、札幌市は60歳以上の回答者が全体の59.1%、70歳以上が43.5%であるのに対し、国は65歳以上の回答者が全体の11.4%と回答者の年齢層に大きな違いが見られております。

札幌市の調査結果を見ますと、高齢者はリハビリや健康維持の目的で散歩、筋トレといったトレーニングを行うことが多く、60歳以上のスポーツ実施率も平均値を上回る53.3%となっておりますので、国の調査ではこういった層が抜け落ちていることが札幌の結果との乖離が生じている原因ではないかと分析しております。

次に、三つ目のウインタースポーツ実施率でございます。

令和元年度は18.6%と前年度から2.4ポイントの減少となっております。この原因といたしましては、昨シーズン前半の少雪と後半のコロナウイルスの影響によりまして、シーズンを通してウインタースポーツをする機会が減少したのではないかと分析しております。

ウインタースポーツの振興策といたしましては、先ほど紹介した施策をはじめ、幅広く展開しているところでありますので、将来的には実施率の向上につながるものと信じて、引き続き取り組んでいきたいと考えております。

なお、比較対象として、20歳以上の割合も掲載しておりますが、前半でご説明したとおり、高齢者の方にとっては取り組みづらいところでもありますので、50代以上の世代ではいずれも実施率が10%を切っている状況となっております。

次に、四つ目の直接スポーツ観戦率でございます。

令和元年度は43.6%と前年度から3.8ポイントの増加となっております。比較対象としての国の数値は26.8%と大きな乖離がありますが、この違いは、調査対象者が、札幌市は札幌市民であるのに対しまして、国は広く国民全体であることによるのではないかと考えております。

具体的な観戦競技で比較いたしますと、プロ野球は札幌市が28.9%であるのに対して、国は13.7%、プロサッカーが札幌市は9.2%、国は5.1%、マラソンが札幌市は7%、国は2.3%、プロバスケットボールは、札幌市が3.1%、国は1.5%と札幌市民になじみの深いスポーツは、いずれも国の割合の2倍近い状況となっております。

それから、ラグビーでございますが、札幌市は6.9%、国は2.7%ということで、ラグビーワールドカップ開催都市としての成果が現れたのかと考えております。

今後も、スポーツをみる、支える指標である観戦率の向上のため、プロスポネットSAPPOROなどを通じて観戦文化の調整に取り組んでまいります。その一方で、コロナウイルスにより入場制限の影響から、この数値も今年度は厳しいものになるのではないかと予想しているところでございます。

最後の指標、五つ目はウインタースポーツ目的の来札外国人観光客数でございます。

令和元年度は11万6,000人と前年度から4万6,000人の大幅減となってしまいました。

これは、集計上の母集団である令和2年1月から3月の外国人宿泊者数の大幅減によるものでございます。特に2月につきましては、前年同月比45.9%減、3月は92.1%減となっております。コロナウイルスの影響が数年続くことを考えますと、目標の25万人の達成というのは非常に厳しい状況なのかなと考えてございます。

最後に、繰り返しになるところもございしますが、まとめといたしまして、一番下の6、事業実施結果及び成果指標に係る分析、要因についてでございます。

まず、事業実施結果でございますが、全部で99ある取組のうち、86件、およそ9割の事業が、おおむね当初の見込みどおり実施できたものと評価しております。

黒三角は、予定どおり実施できず、今後に向けて検討を要するものとして2件を計上しているところでございますが、これは事業の再掲によるもので、実際には、スポーツ施設の配置活用計画策定事業、先ほどご説明した事業の1件のみとなっております。

ハイフンの11件でございますが、コロナウイルスや少雪の影響で事業が実施できなか

ったものでございます。

次に、成果指標でございますが、スポーツ実施率は障がいのある方も含めて上昇傾向でございます。ウインタースポーツ実施率及びウインタースポーツ目的の来札外国人の観光客数は、外的要因により減少、直接スポーツ観戦率につきましては、スポーツが身近にある札幌の強みを生かし、堅調に推移しているところでございます。

ただ、いずれの数字もコロナ禍では大きく影響を受けることが予想されておりますので、コロナ禍におけるスポーツの関わり方が今後重要になってくるのではないかと考えております。

参考といたしまして、資料の中ほどの右側でございますが、コロナ禍における本市の取組ということでご紹介させていただいております。

今年、札幌マラソンが中止となりましたが、代替として、札幌マラソン 2020 by T A T T Aを開催することになっております。これは、スマートフォンのGPS機能を利用したオンラインイベント、バーチャルマラソンというもので、本番は10月に予定しており、プレイベントとして7月から3回実施していますが、非常に好評で、申込みも1時間たらずに全て埋まってしまうほどの好評をいただいているところでございます。

それから、スポーツ施設でございますが、6月1日から再開しております。学校開放につきましては、8月1日から再開しております。

再開に当たりましては、ガイドラインを作成の上、消毒の徹底、利用人数の上限を設けるということでソーシャルディスタンスを徹底するなど、感染リスクを下げつつ、市民の皆様へのスポーツ機会を提供しているところでございます。

本日は、報告内容に関するご意見のほか、委員の皆様には、我々としても大きな課題と考えてございますコロナ禍におけるスポーツ活動につきまして、それぞれの専門的なお立場からご発言いただき、我々の今後の事業の参考にさせていただければと考えてございます。

長くなりましたが、説明は以上でございます。

○黒田会長 ありがとうございます。

事務局からの報告について、ご意見やご質問などがありますでしょうか。

僕から1点いいですか。

聞き漏らしたかもしれないのですが、施策2の(2)スポーツを実施する機会の提供・情報発信の学校開放の実施ですが、体育館の開放率は、札幌市の体育館に対して88%開放されたという理解でよろしいですか。

○事務局（金谷企画事業課長） 学校開放は、全部の学校ではないのですが、札幌市のほぼ全ての小・中学校で開放していますので、そちらの率となっております。

○黒田会長 それでは、開放したものを活用した割合はどういう感じになっているのですか。

○事務局（金谷企画事業課長） 開放した割合ということで言うと、学校開放事業が学校の教育目的で利用するものに影響を与えない範囲で開放していますので、その開放した率としては、体育館自体は非常に高い率で、9割近くになっています。屋外のグラウンドについてはちょっと低い率なのですが、体育館自体は、すごく人気があって、予約もすぐに埋まってしまうという状況です。

○黒田会長 ありがとうございます。
そのほかにいらっしゃいませんか。

○川島委員 スポーツ実施率に関連して、先ほど、20代、30代の実施率が低いということで、ビジネスパーソンへの働きかけ方というお話がありましたが、何か具体的なことがもしあれば、一つ、二つ、教えていただければと思います。

○事務局（金谷企画事業課長） ビジネスパーソンに対するアプローチというのは、実は、スポーツ局だけではなくて、保健所等も含めた健康という部分でも我々のウイークポイントになっています。この世代の方々は、仕事を持っていたり、子育てをしたり、なかなか忙しいということで、スポーツをしていただけないという現状にありますので、この方々にどうアピールしていくかというのは本当に悩みどころであります。

逆に、皆さんから、こういうことをやればその世代も運動してもらえるとというアイデアがあれば、ぜひ教えていただければと思っています。まさに、この世代を何とかするのが我々の今後の使命かと思っています。

○黒田会長 ありがとうございます。
ほかにいらっしゃいますか。

（「なし」と発言する者あり）

○黒田会長 先ほど、事務局から、ご意見でもありましたように、コロナウイルスの影響で残念ながら中止になったものが結構多かったという報告を受けました。皆様の周りにそれぞれスポーツに携わっている方が多いと思いますが、どのような影響があったかについて、皆様からご意見を出していただきたいと思っています。

まず、僕からお話しさせていただきますと、大学だけなぜ再開しないのかということいろいろと話題になっていると思います。やはり、学生の行動範囲が広いので、どうしても対面授業を躊躇してしまうというのが運営側のやり取りで結構ありまして、会議も私どもの大学では早々にオンラインでするようになりまして、ハンコも押さなくなりました。

そういった部分でかなり影響は出てきたのですけれども、学生が目線で言うと、本学はスポーツ系が結構強いのですが、スポーツで来た学生等がスポーツができない状態で家にいるということで、かなり心身に影響が出ています。本学の保健センターにメンタルヘルスも取り扱う先生がいるのですけれども、精神的に不安になってというような方が2倍という状況です。部活動をしている学生にも結構出てきて、いよいよ考えなければいけないということで、7月から、学校が認める体育系の部活動のみ練習が認められまして、段階的に練習が認められてきている状況であります。

また、教員側で言えば、その再開に関して、いろいろな方からご意見をいただいてガイドラインを作成して学生に徹底周知する、そうすることで部活動を許可しますという形でいろいろとやっていました。

ですが、大学の試合、インカレなどの就職にかなり関わるような試合等は軒並み中止になっておりまして、各団体で代替案や延期となっているものがあるのですけれども、そういったところは足並みがそろわず、今年はもうないという部活もあるというような影響が出ています。

それでは、委員の皆様から順にお話を聞かせていただければと思います。

明石副会長、どうでしょうか。

○明石副会長 先ほど、札幌市の学校開放事業がありましたけれども、地域の方々がスポーツ活動の場として小学校の体育館を使用して、自主管理をしております。体育振興会は自主管理の小学校の体育館を使用させていただいている団体でして、その中で各種スポーツ活動をしております。

その体育振興会は、札幌市に110団体あるのですけれども、100の体育振興会で札幌市体育振興会連絡協議会というものをつくっております。今回のコロナ禍の中では、道や市や各区、振興会の行事、スポーツ大会、全部が中止となっておりますので、振興会のメンバーも含めて、何千人もの方がスポーツができない状態にあり、それによって、体調、体力、精神面、いろいろな影響が出ております。

体育振興会というのは、週1回から2回、何種類かのスポーツを曜日に分けてしておりますが、その活動中止によってスポーツができなくなってしまうんです。体育振興会は、8月1日よりスポーツができるようになったのですが、高齢の方が多い種目の卓球やバスケットボール、ほかにもありますけれども、そういうところはまだ中止しているんです。そうすると、そのスポーツの活動の中断によりまして、高齢者たちの健康寿命が本当に心配になってきますので、コロナウイルスが早く終息することを願っています。

以上です。

○黒田会長 ありがとうございます。

次に、浅香委員、いかがでしょうか。

○浅香委員 私のところも、例外に漏れず、2月末の鈴木知事の緊急事態宣言から、西区二十四軒に身体障害者福祉センターという建物がありまして、その中に体育館や体育施設も持っているのですけれども、閉鎖となりました。ほかの事業も中止になったのですけれども、例年5月から6月にやっている障がい者のスポーツ大会も中止になりました。

また、障がい者の体育施設につきましては、9月から一部オープンしたのですけれども、約15競技くらいをその体育館で週や時間分けなどをしながら練習に励んでもらっているのですが、やはり半年近く休んでしまうと、再開したのでやってくださいといっても、休みぐせがついて再開できなかったり、障がいによっては、呼吸器や心臓の関係とか脳血管障がいの方などもおりますので、血栓ができやすいとか、喉頭摘出の方だと気孔に穴が開いて、そこから直接空気を吸ったりするものですから、そういう方は肺に直接空気が入って、とてもではないけれども、危ないということや、ほとんどの方が公共交通機関を利用してくるものですから、個々人が危険だということで自重されている方が多かったです。

ようやく9月から一部再開したのですけれども、障がい者スポーツ特有で、練習もそのまましていない中で、いざ競技に取り組むというのもなかなか難しいところがあって、ボッチャやアーチェリーなどいろいろな大会があるのですが、来年の3月までは、競技大会はほぼ全面中止という形になっています。

これは、私の団体がやめなさいと言ったわけではなくて、ふだん練習されている競技プレーヤーがこれから練習を始めるけれども、3月までに元の技量に戻るまでには至らないだろうということで、自主的に大会等は中止という形になっています。

○黒田会長 ありがとうございます。

それでは、岩崎委員、どうでしょうか。

○岩崎委員 先に事務局に質問させていただきます。

こちらの進捗状況についてということで、2019年度の実施について自己評価をされているのですけれども、今年度、2020年度につきましても、いずれ自己評価をされる予定でしょうか。

○事務局（金谷企画事業課長） 毎年、自己評価はしていこうと思っております。ただ、コロナウイルスの影響がありますので、自己評価はどうしても低いものにならざるを得ないかと現在は思っております。

○岩崎委員 そうですね。スポーツ大会の実施とか、海外からのウインタースポーツの発展とか、この評価となると厳しい結果になってしまうと思っていました。

今シーズン、2020年度については、このままいって見直しは行わないということでもいいですか。

○事務局（金谷企画事業課長） この取組自体でしょうか。

○岩崎委員 そうです。

○事務局（金谷企画事業課長） 取組自体の中でも、例えば、先ほどご紹介したようなマラソンなどはオンラインでできるようなものも民間の会社のアプリなどもありますので、そういうものを使ったり、コンサドーレさんにもご協力いただいて動画を作って、家で楽しめる動画で軽運動をしてもらったりというように、コロナ禍でもできる取組は今後もやっていかなければならないと思っています。

また、ウィンタースポーツシーズンについては、どちらかというと屋外競技になりますので、コロナウイルスの対応という部分でも夏場の室内に比べるとやりやすい面もありますので、イベントなども人数は多少絞り込んでいかなければならないと思いますが、夏よりは展開できていくと思っております。

加えて、コロナ禍で皆さんが取り組んでいるもので、こんなことをすれば運動できるというものについて各委員の皆様から何かアドバイスをいただければ、それを参考に我々のほうでもできることは対応して、少しでもスポーツ実施率を上げていければと思っています。

○岩崎委員 ありがとうございます。

脱線してしまったのですが、Ｊリーグとコンサドーレのこれまでの取組を簡単にご紹介したいと思います。Ｊリーグは、第１節を２月に開催しまして、そこからコロナウイルスの影響で一時中断という形になりました。７月からＪリーグが再開したのですが、当初、７月の時点では、リモートマッチということでの開催、８月からは上限５，０００人という体制で今までやってきています。

先日、スポーツ庁からイベント開催についての制限の緩和というものが入りまして、Ｊリーグとしても、９月１９日以降については、政府は５０％と出しているのですが、Ｊリーグはキャパシティーに対して３０％の観客を入れて行うというルールになっています。

ただし、その上限については、各クラブに任せる形になっておりますので、我々コンサドーレにつきましては、今のところ、９月いっぱいはこのまま５，０００人制限で慎重にやろうと思っています。１０月以降については、そこを徐々に緩和しながらやっていこうと思っています。

当然、選手たちも３月、４月は自宅待機にさせて、トレーニング自体もそれぞれの自宅で行っておりました。我々としては、リアルなスポーツを提供するのがプロスポーツの仕事だと思っていますが、リアルも大事なわけけれども、バーチャルにも目を向けていかなければいけないということを今回のコロナウイルス感染拡大で感じたところです。

例えば、私どもは、アカデミーと言いまして、アンダー１８やアンダー１５などで、４００人から５００人ぐらい、サッカースクールに通っている子どもたちで１，０００人ぐらい、併せて１，５００人ぐらいがコンサドーレのファミリーの中にいるのですが、その子たちも学校が休校になっている、家にいなければいけない、練習もできない、体も動かせない、ストレスもたまってきてしまっているということになってしまっております。そこで、我々に何ができるかといったら、まず、コンサドーレのファミリーを大事にしようということで、トップチームの選手たちが、トレーニングの様子をアカデミーとスクールの子どもたち向けにユーチューブでいろいろ提供しました。

例えば、ジェイという選手がいるのですが、イングランド出身で英語をしゃべります。チャナティップというタイの選手はタイ語がしゃべれます。ブラジルのアンデルソン・ロペスとかルーカスはポルトガル語をしゃべれますので、スポーツばかりではなくて、英語教室、タイ語教室、ポルトガル語教室みたいな感じで、私どものファミリーたちに流しました。

ですから、スポーツ、体を動かすことも大事なのですが、そういったスポーツ選手からの発信によって、スポーツに関わる以外のことでもいろいろなものが子どもたちとか世の中に対して発信できるのではないかとすごく感じたコロナ禍でありました。

ですから、リアルなスポーツも大事なわけですが、バーチャルのスポーツですね。僕らも札幌マラソンの第１回目に協力させていただいたのですが、非常に人気が高く、あっという間に募集を締め切りました。きっと、今、世の中は、バーチャルのスポーツにも非常に興味を持っているということを感じています。

本当は早くリアルの世界に戻るのが一番いいのですが、このコロナ禍の中でできることをいろいろとやっていく必要があるのではないかとクラブとしては思っております。

○黒田会長　ありがとうございます。

１点だけ追加で質問です。かなり大所帯だと思うのですが、イベントなどを開催する上で、対策がかなり重要かと思っていまして、それが札幌市のほうにもつながるのではないかと考えています。何かあればお願いします。

○岩崎委員　すみません。大事なところが抜けておりました。

今、定期的に新型コロナウイルスの対策連絡会というのをNPBとＪリーグで組んでおりまして、そこに感染症の専門家の方も３人参加していただいております。そこでプロ野球もそうですし、Ｊリーグもそうですけれども、プロトコルというガイドラインをつくっております。Ｊリーグでもオリジナルのガイドラインをつくってございまして、９０ページ近くあって、すごく細かくて厳しい内容なのですが、各クラブはそれを基に選手たちが対応していく、試合をするのであれば、こういったことに気をつけて対応しようと、各クラブで統一して展開しております。

当然、これも僕らが勝手にやるわけではなくて、北海道庁、札幌市、保健所のほうにも、事前にこういった形で試合を開催しますということをちゃんと情報共有、提供しながらやっている状況です。

○黒田会長 ありがとうございます。

それでは次に、川口委員、よろしくお願いします。

○川口委員 私たちスポーツ推進委員は、中央区独自で、年間3本立ての行事をやっているのですが、大倉山531mというのは、6月は全く駄目だということで断念しました。

第2弾目は、11月21日に、新しい中央区の体育館を使って、20回目となるインドア雪合戦の開催を進めております。

子どもたちは、1チームが大体5から10人で、参加チーム数が、低学年が去年並みでいきますと11チーム、高学年は16チームということを目指しております。イベントの開催に向けて、安全対策をこの前に2回やりました。

まず、座席の部分では、8時、9時くらいから準備が始まるのですけれども、座ってはいけないところをあらかじめ表示しておく作業をするため、1時間30分、2時間遅れのスケジュールで進めていくことにしました。また、使う球はどうするという話になって、手袋にするという案もあったのですけれども、球をいちいち消毒するわけにはいかないので、まず、子どもたちが始まる前に消毒をするようにするなど、安全に開催できるよう区のほうとも詰めている状況です。

どこまで子どもたちが参加してくれるかどうか分からないのですけれども、今までを見ますと、児童会館の通っている子たちが二、三チーム出ているとか、野球クラブを持っている子たちが多いとか、学校の父母の方たちが組んで今回はやりましょうという参加が今までは結構多いので、ぜひ成功させたいと思っています。

もう一つは、2月に毎年、大倉山ジャンプ競技場の間をチューブ滑りとそりで滑る催し物とジャンプ台横の階段を上がって、最後はゴンドラで帰っていくという催し物をほかの団体の人たちと一緒にやっています。そっちのほうも議論していますが、今までのようなやり方ではできないだろうと考えています。

集合する人もバスで来てもらうので、その部分をどうするか。それから、いろいろな団体が参加しますので、果たしてその人たちもできるのかということなどを検討しております。私たちは、最初で開催した時には、チューブ滑りだけという本当に素朴なものから始めました。階段も、ゴンドラを使わないで、上って下りてくるというだけを人数的に大体50名から60名単位で2回やっていたのですけれども、今回は何十名かでやるにしても、3回くらい的人数制限でやっていこうかという話で進めています。今のところ、開催に向けてどういう形がベストなのかということを考えながら、少しずつ開催に向けて計画している状況です。

○黒田会長 ありがとうございます。

それでは、川島委員、お願いします。

○川島委員 私たちのほうは、施設のスポーツ施設の管理、運営をさせていただいていますので、その視点から、まず、報告をさせていただきます。

6月から体育館等々の開放を再開したのですけれども、当時はかなりのお客様に来ていただいたという感覚がありました。皆さんが待ち望んでいたことは間違いのないと思います。

その後、高齢者の方々が特に心配が強い気がしますので、なかなか戻ってこれなく、今は、回復が遅れている状態で、昨年と比べると6割程度の利用にとどまっているのが現状です。

あとは、競技団体の皆様方に使っていただく大会も、今は徐々に記録会など形を変えながら戻ってきていただいております。

ただ、今は種目によって、各ガイドラインが違いますので、皆さんはそれぞれに工夫されて、まだ記録会程度ですけれども、実施されている状況になっております。

もう一つは、重複しますが、私どもは札幌マラソン大会の事務局をさせていただいております。岩崎委員には、ご協力いただき、本当にありがとうございます。

先ほどもお話がありまして、今は全国的にバーチャルマラソンに人気が出てきています。特に、マラソンは非常に優れたアプリがありまして、GPSを使って、スマホに、実際に走ったコースが現実的に映った中で距離が出てくるものがあります。本番の大会を10月に開催しますけれども、今までは無料で500人ずつ3回やって、あっという間に1時間程度で定員が埋まったのですけれども、今度は有料で3,000円でハーフのコースを見ながら走っていただく大会をしたいと思います。

ですから、これで本当に、これがどこまで浸透しているのかということが分かると思っていますので、これを見ながら、今後、バーチャルも含めたイベントの在り方を考えていきたいと思っています。

○黒田会長 ありがとうございます。

それでは、土肥委員、よろしくお願いします。

○土肥委員 こちらは、直接、スポーツを主催したりということはないのですけれども、それをサポートしたり、健康管理をしたり、観戦コントロールをしたりということに関わっております。

直接に関係するところでは、今回のスポーツ推進計画の中にいろいろな成果指標がありましたけれども、直接スポーツ観戦率というものがあります。これは結構重要で、若い人はそういうものを見て楽しんで、自分もやりたいということで体を動かして健康になるのですけれども、僕らの同級生はみんな還暦を超えているのですが、コンサドーレとか日ハ

ムのファンはたくさんいまして、みんな行くのを楽しみにして、公共交通機関を使って、階段を上ったり、ドームの階段を上ったり、厚別まで行ったりというのが非常に運動になっていたのです。それは文化事業も同じですけれども、演劇やコンサートなどが止まったので、高齢者の行き場がなくて、自宅に籠って、いわゆるフレイルということで、運動をしないので、身体的にも精神的にも弱る形になっています。

まだ潜在状態になっていて直接は出ていませんけれども、直接的には子どもさんが登校してきたらけがをしやすいのですが、それは高齢者も同じで、それから見ると、スポーツはもちろん頑張ってやってほしいし、できるのであれば観客のことも考えて、感染管理をきちんとしながら、怖がらないで、なるべく早めにとできるところからきちんとやるということをお願いしております。

保健所は札幌や北海道の事情をよく知っていて、どういうふうに感染したかということが一番把握しているので、すすきの対策自体も保健所がしっかりタイアップしてやっていて、よくコントロールできている状態です。分からないことがあったら、遠慮なく保健所、すごく大変で苦労していますけれども、非常に大切なところですし、今回、北海道から号令が出ていますので、みんなは怖がりながら、誰か先にやれよという感じでなかなか手を挙げないのですけれども、ぜひともそういうところで、札幌市民も、これから高齢化社会を迎えるに当たって、スポーツを非常に楽しみにしている人たちの健康増進にとっても役に立っていることがあるので、皆さんは気をつけて、そういうところもいろいろリサーチしながら進めていただければ、札幌市民はより健康になるのではないかと思います。

有意義な事業ですので、役所の方も頑張ってやってほしいと思います。

○黒田会長 ありがとうございます。

中山委員、いかがでしょうか。

○中山委員 中体連の立場は、札幌市、北海道、日本中体連ということで、いわゆる日本中体連の全中と呼ばれる全国大会をやらないことが決まったところから、下部まで全てやめる流れが一気に来たところです。

現実には、小・中学校が全国的に休校の措置になって、学校が休みになったり、部活動の再開がいつになるのかというめどが全く立たない中でしたが、やはり全国大会は宿泊を伴うので、たくさんの人数が集まるので到底無理ということです。道の大会においても同様に、開催地域に人が集まることになるので、まず無理だろうということです。

今度は、地区の大会になったときには、一部の地域では、感染予防対策を講じながら十分開催できると、道内の各地域ではそういう声がとても大きかったのですけれども、札幌市内の場合は基本的に無理だろうと。

例年でいきますと、6月中旬から7月中旬の1か月の間に、数万人単位で子どもたちが

移動して大会を行うことになりますので、物理的には無理ということで、夏の選手権大会については全て中止となりました。

その後、学校の再開、練習の再開、それから、対外試合や移動可能ということが順次進められていく中で、8月に入ってから中学生においても大会ができるようになりました。

皮切りは新人戦大会の陸上競技でございまして、円山で出場制限をかけるとか、種目を減らすとか、制限をかけるとか、保護者は一切入れないとかというところから、外会場でのものから始めたところです。

屋外競技の野球等については、中学校を会場にする試合も始めたばかりでございまして、夏休み中には3年生の思い出大会と呼ばれる代替大会という形で、交流試合的なものも学校を会場に一部開催したのですが、保護者の方に見ていただくことがとても難しく、そこに苦慮したところがありました。

現状としましては、新人戦大会全種目について、今、開催したいということで動いていますが、保護者の観戦は難しいというところで進めています。

競技の種別で申し上げますと、柔道、剣道、相撲は無理ではないかと今も思っております。柔道は1月まで延ばしましたが、多分、それまでに国レベルで大会は再開しないだろうと思います。剣道についても、つばぜり合いがあることを考えたら難しいのではないかとということで、今、推移していますが、できるだけやりたいということです。相撲につきましては、競技人口は多くないのでありますが、取りあえず10月の予定は、ここではやらないと。今後の様子を見て決めるということで、今動いているところです。

ボールを使う競技と水泳等も大きな競技場を確保できますので、その中で実現できる見込みで今やっている状況です。

一番は、子どもたちが運動できて、ストレスを発散しながら充実した体づくりも含めてやってもらいたいというところで、ここは、大会までいかなくても、部活動ができるようになったところから、交流試合やスポンサーの先生方からの働きかけ等で子どもを動かして、本当にストレスを発散させながらやっていきたいということを頑張っている状況にあります。

進路にも関わる部分がありまして、大会に出ていないから評価される部分がないということもある中で、各高等学校のほうでも気をつけながら声をかけていただいて、人材発掘も含めていろいろな手段を講じながらやり始めてくれている段階にあるところだと思います。

具体的にこういうところでという話が私の手元に入ってくる段階ではまだないのですが、何とか再開して、何とか姿を見てもらうことができるようになりましたので、これからその影響について集約されてくるという段階です。

○黒田会長　ありがとうございました。

最後に、堀田委員、よろしくお願いいたします。

○堀田委員 私は、ふだんから表彰物件、記念品提供に携わっておりまして、2月のコロナ禍になったときに、今年の12月までの表彰というスポーツだけではなく、囲碁、将棋、吹奏楽、全てにおいての大会が12月まで全てゼロになりました。

それくらいすごいということで、私どもはイベント会社だったのだなということを改めて感じましたけれども、8月になると、中体連もそうですけれども、状況が少しよくなりまして、今だというばかりに、水泳も少年野球の野球チームも一気にスポーツをやっております。

それに合わせて、通常ではあり得ない納品の速さで、表彰物品を取りそろえて、子どもたちのうれしそうなというか、聞こえてくる声援には応えたいということで、今、仕事をさせていただいている立場であります。

私自身も中学3年生の時に卓球部、現在陸上部にいる高校生の娘がいるのですが、卓球部の活動は最後があったかなくらいで終わってしまいました。運動している子どもたちが静かにしていますので、日に日に弱ってきます。家にいて、ウェブで授業をして、お友達と会えないという状況は、大人もそうですけれども、子どもは精神的にかなり支えなければ厳しいということを実体験させていただきました。

夜に体力づくりに歩くとか、無駄に走るとか、ちょっと促して日常と変わらない生活を持たせることが身近にいるサポート側の役割なのかなと考えながら、サポートを長くするために、自分自身も体力をつけなければ仕事ができないということに気づくとか、人間の基礎体力の見直しをかなり考えさせられた気がします。

今所属している札幌商工会議所の女性会というところは、かなり年齢の高い女性の集まりですけれども、ファクスでしか連絡が取れない方だったり、リモートと言っても理解できない方が多くいらっしゃるのです。その中で会議をすることが非常に困難で、このくらい広い会議室で窓を開けて5人だけで会議をすとか、わざわざそういう会場を用意していただくとか、今年は、その場その場でかなり工面したり、工夫したり、いろいろなことがあります。年齢に応じたサポートの仕方を今のうちに考えて、今後、コロナウイルス以外でも何か起きたときにも応用できる筋道をつくるべきではないかと感じました。

○黒田会長 皆さんの生のお声をいただきまして、ありがとうございます。

時間が少し押していますが、それを踏まえて、これからのスポーツ行政に期待することや要望を皆さんからお聞かせいただければと思いますが、いかがでしょうか。

先ほど、皆さんの生の声をお聞かせいただいたときに、キーワードとして、バーチャルというところと高齢者が運動できていないということがありました。運動自体はメンタルヘルスにかなり影響しているということが今回非常に分かったわけですが、特に運動しないことによる筋力低下や心肺機能の低下などという生理学的な面で影響が出るのはもちろん理解できていると思うのですが、メンタルヘルスの部分は恐らくバーチャルなどでクリアになるところがあると思います。ですから、そういった部分をもう少し裾野を広

くといいますか、先ほどおっしゃったように、ご高齢の方でバーチャルに慣れていない方もいらっしゃると思うので、そういった方が気楽にバーチャルに触れられるような、ちょっとメンタルヘルスが良好になるようなことをいろいろと考えたらいいのではないかと思います。

先ほど土肥委員がおっしゃったように、高齢者が観戦に行くことによって、歩いたり、公共交通機関を使うことによって、歩数が増えたり、健康増進につながる部分もあったと思うのですけれども、今後、この状況で観戦が少なくなってしまうことを考えたときに、こういった代替案が医者のお立場から考えられますか。

○土肥委員 今、1日検査した中で10%を超えない感染率の範囲ですけれども、基本的なことに気をつけていれば、このままいけると思いますので、外出にしても大丈夫です、公共交通機関はこうすれば安全ですということで外出をもう少し促す形にすると、いろいろなスポーツイベントの集客にも効果があると思います。お年寄りには本当に怖がっているのです、そういった札幌市の安全な取組というものを十分に周知していただければ、みんなもこれぐらいはやっても大丈夫なのだというように自信を持つことができるようになりますし、それはスポーツの発展につながると思っています。

○黒田会長 ありがとうございます。

公共交通機関を使っても問題ないということを高齢者の方にも理解いただくことは、スポーツ行政のほうにも関わるかなり重要な部分だと思います。勉強になりました。

○事務局（金谷企画事業課長） 最後に一言申し上げさせてください。皆さん、貴重なご意見をありがとうございました。

我々は、先ほど言ったように、働く世代にどうアプローチしていこうかと考えていたのですが、コロナ禍においては、ふだん、高齢者の方々は散歩などで運動をしていただいているのですが、そういう人たちにどうアプローチしていくかということも考えていかなければならないということを改めて認識しました。

今年、新聞でウォーキングを取り上げていただいた関係で、我々のところにウォーキングマップに関する問い合わせが非常にたくさんありまして、持って帰る方がいらっしゃいました。私どもは、夏場はウォーキングでいいのですけれども、これから冬場になって、高齢者の方にどう運動してもらおうかと考えていました。我々はスポーツ部局なので、どうしても運動、スポーツをしてもらおうと考えるのですが、今日お話を伺って、外出するだけで高齢者の方にとって運動になるのだということを改めて認識しました。我々も、高齢者の方にコロナウイルスの対策を正しく伝えて、認識してもらって、外に出てもらうということを、我々だけではできないこともほかの部局と連携してやっていかなければならないと思ったところです。

本日は、どうもありがとうございました。

○黒田会長 本日予定しておりました議事は全て終了しましたが、その他、委員の皆さん、また事務局から何か審議事項はございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○黒田会長 委員の皆様、ありがとうございました。

進行を事務局にお返しします。

4. 閉 会

以 上